

12月8日(金)~24日(日)、1月1日(月・祝)~1月8日(月・祝)

「麗しの雅楽器」

銘(めい)と呼ばれる愛称をつけ、色鮮やかな裂(きれ)の袋や精緻(せいち)な蒔絵(まきえ)の箱に包んで、愛玩されてきた雅楽器。楽器を収納するこれらの袋や箱もまた、見所のひとつです。工芸美の粋を凝らした華やかな雅楽器の世界をご堪能ください。



▲龍笛(りゅうてき) 銘鈴虫 個人蔵

ギャラリートーク

12月9日(土) 11:00~11:30、14:00~14:30
※事前申込:不要 場所:展示室1

観覧料が必要

常設展示の名品

常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した家宝を中心に80点あまりを展示しています。

ほんものとの出会い

12月8日(金)~2月6日(火)まで
「刀 無銘 伝長船倫光」

大きな鋒(きっさき)と波打つ刃文が特徴的な刀。現在は磨上(すりあ)げられていますが、当初はもっと長く、反りが大きな大太刀であったことがうかがえます。南北朝時代に活躍した長船倫光の作と伝えられます。



休館日のお知らせ
11月29日(水)~12月7日(木)、同25日(月)~同31日(日)

文化プラザだより

12月22日(金)18:00 グランドホール

冬のよしもとお笑いライブ in ひこね

この冬もひこねでよしもと!旬の人気芸人たちが全国を訪れる「よしもとライブ」と「新喜劇」を一度に楽しめるスペシャルなステージ!お見逃しなく!

出演:テンダラー、ファミリーレストラン、スーパーマラドーナ、ジャングルポケット、学天即、吉本新喜劇(辻本茂雄、アキ、伊賀健二ほか)

【発売中】
指定 一般 4,000円、友の会 3,800円
※当日一律4,500円
※5歳以上有料。4歳以下は膝上のみ無料(お席が必要な場合は有料)。

12月24日(日)16:00 エコーホール

アン・サリー X' mas ライヴ

現役医師であり歌手のアン・サリー。世代やジャンルの枠を超え魅了する、のびやかで温かな歌声をお楽しみください。

【発売中】
指定 一般 4,500円、ペア 8,000円
学生・障害者・高齢者 4,200円
友の会 4,000円、友の会ペア 7,600円
※未就学児は入場いただけません。
※託児サービスがあります(12月14日(日)までに要申込)。

チケット販売について

◎表記のチケット価格は、全て税込価格です。

◎2歳以下・未就学児が入場しただけの公演は託児サービスがあります。子ども1人1,000円です。

◎高齢者(65歳以上)・障害者・学生、中学生以下、ペアのチケットは、ひこね市文化プラザチケットセンター窓口のみの販売です。

12月の休館日 4日(月)、11日(月)、18日(月)、25日(月)、29日(金)、30日(土)、31日(日)

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)
インターネットでも購入いただけます。 <https://bunpla.jp/>

ひこね市民大学特別講座

2018年1月13日(土)14:00 グランドホール
さかなクンのギョギョッと
びっくりお魚教室 in ひこね

【発売中】
指定 一般 1,500円、中学生以下 800円
友の会 1,300円、友の会中学生以下 700円
※2歳以下は入場いただけません。
※託児サービスがあります(12月28日(木)までに要申込)。

2018年1月14日(日)14:00 グランドホール
金谷俊一郎「世界一わかる歴史の授業」
~ここがすごい彦根の歴史~

歴史コメンテーターで「東進ハイスクール」日本史講師の金谷俊一郎の講演会です。

【発売中】
指定 一般 1,000円、友の会 800円
高齢者・障害者・学生 900円、中学生以下 500円
※未就学児は入場いただけません。
※託児サービスがあります(12月28日(木)までに要申込)。

＼お得に見よう!キャッシュバック!／

上記2講演会のチケット購入者に、200円をキャッシュバックします。金谷俊一郎講演会に両講演会のチケット(半券)をお持ちください。チケットをお忘れ・紛失の場合、キャッシュバックできません。あらかじめご了承ください。詳しくは、ひこね市文化プラザチケットセンターまでお問い合わせください。

雅楽は、奈良時代に中国や朝鮮半島からもたらされた大陸の音楽と、日本古来の音楽とを総合した、日本を代表する伝統音楽です。宮廷や寺院、神社の行事、貴族らによる遊興の場で盛んに行われ、最盛期の平安時代には宮廷文化を華やかに彩りました。その後、時代によって衰退した時期もありましたが、そのたびに復興し、今に受け継がれています。

使用される楽器も、外国に起源を持つものと日本古来のものがあり、外来の楽器は日本人の好みに合うように取捨選択、改変され、現在見る形になりました。その構造、形から、管楽器(吹きもの)、絃楽器(弾きもの)、打楽器(打ちもの)に分けられます。

これらの楽器は、音を出すという実用性だけが重視されたものではありませんでした。古い作品や由緒ある作品、楽器として優れた作品には、しばしば「銘」と呼ばれる愛称が付けられました。そして、それを色鮮やかな錦で仕立てた袋や精緻な蒔絵を

施した筒を、箱に納めて愛玩したのです。作品を収納するこれらの袋や箱もまた、雅楽器の見所のひとつといえるでしょう。

筒や箱の装飾として特に多く見られるのが、銘にちなんだものです。例えば、「鈴虫」の銘を持つ竜笛の筒に、鈴虫を詠み込んだ和歌、薄と鈴虫を蒔絵で表わすというように、銘を題材とした装飾が施されました。

また、和歌や漢詩、「源氏物語」や「伊勢物語」に取材したデザインもしばしば見られます。当館が所蔵する箏の一つに、螺鈿で杜若と流水を表し、これを包む裂などに杜若をデザインしたものが残っています。杜若と流水は、「伊勢物語」第9段、都から東国へ向かう在原業平が、三河国八橋の杜若が咲く水辺で「かきつばた」を詠み込んだ和歌を詠んだ、というエピソードを象徴する意匠です。

あるいは、楽器を納める箱に由緒ある古材を用いたり、楽器を包む袋や箱の覆いに、外国産の貴重な染織



▲写真 筆篋 銘玉笹

品を使用することもありました。このように、納める袋や箱にも細やかに心を砕いて、楽器は慈しまれてきたのです。

「玉笹」の銘を持つ筆篋(写真)は、楽器がいかん大切にされていたのかを端的に教えてくれる作品です。筆篋は、上端に葦の茎で作ったリードを差し込んで演奏する竹製の縦笛。全長18cm程度の小さな楽器です。

この筆篋には、次のような袋と箱が付属しています。写真右側の筆篋から順に、金糸で笹の文様が表された筆篋を納める紫色の袋、これを収

納する松竹梅と鴛鴦を表した蒔絵の家(簞笥)、この家を包む華やかな紅地の錦の袋、そしてこれを納める松竹梅に鶴をあしらった蒔絵の箱。二つの箱は、松竹梅、鴛鴦、鶴と、めでたいモチーフを表した、実に豪華なものです。また、写真にはありませんが、左側の箱を収納する漆塗りの外箱も付属しています。

小さな楽器を納めるには、いささか豪華で過剰とも思われるかもしれませんが、これらの袋や箱は、この筆篋を幾重にも包み、慈しむために調えられたものと言えるでしょう。楽器を見る際には、これを愛玩した人々の想いの表れでもある、工芸美の粋を凝らした袋や箱にぜひ注目してください。

(彦根城博物館学芸員 茨木恵美)

筆篋 銘玉笹

＼楽器を慈しむ心＼

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

